

2026
ズバリ! 的中



世界史

北海道大学

ユダヤ教の特徴を説明する論述問題がズバリ的中

入試問題

前期日程 総合入試(文系)、学部入試(文)
大問1 問2

河合塾

大学受験科 基礎シリーズ
世界史演習編 [基本例題]第3・4講8

1 次の文章を読み、問いに答えなさい

前10世紀に繁栄したヘブライ人の王国は、ソロモン王の死後、北のイスラエル王国と南のユダ王国に分裂した。イスラエル王国は前8世紀に A により滅ぼされ、他方のユダ王国は前6世紀に新バビロニアの王 B により滅ぼされて、住民の一部はバビロンに強制移住させられた。その後、アケメネス朝ペルシアがメソポタミアからエジプトまでを征服すると、ユダ王国の人々はイェルサレムへの帰還を許された。こうした経験によって、ユダの民、すなわちユダヤ人はユダヤ教を確立させていった。⁽¹⁾

前4世紀にアケメネス朝ペルシアがマケドニアのアレクサンドロス大王に滅ぼされた後、ユダヤ人は彼の武將が継いだ C の支配下におかれた。ヘレニズム化を推進し、ユダヤ教を迫害する C に対し、ユダヤ人は前2世紀半ばに反乱をおこし、ふたたび独立王国を建設した。しかし、前1世紀前半にローマ軍が C を滅ぼし、イェルサレムを征服して、ユダヤ人の王国を支配下においた。前1世紀後半にローマはヘロデをユダヤ人の王にすえたが、ヘロデの死後に直接支配を強めると、ユダヤ人は後1世紀後半と2世紀前半の2度にわたってローマに対し反乱をおこした。これらの反乱はいずれも鎮圧され、ユダヤ人は五賢帝のひとりのハドリアヌス帝によりイェルサレムを追われて離散状態となった。⁽³⁾

その後、ローマ帝国でキリスト教が普及し、さらに7世紀にイスラームがおこると、ヨーロッパ、北アフリカ、西アジアはキリスト教圏とイスラーム圏に二分されることとなった。イスラーム圏の国家では、ムスリムの支配に服し一定の税を納めれば宗教の自由が認められたため、多くのユダヤ人がイスラーム圏に逃れた。他方、現在のフランスやイギリス、ドイツなどに移住していったユダヤ人も少数ながらいた。西ヨーロッパでは、732年の D でカール=マルテルがイスラーム勢力をやぶるとローマ教会はフランク王国に接近し、さらに E の寄進をつうじて両者は結びつきを強めた。こうしてキリスト教が政治権力と提携すると、ユダヤ人をめぐる状況は悪化していった。⁽⁶⁾

[基本例題]

第3・4講 地中海世界
南アジア・東南アジア世界

8. ユダヤ教の特徴と教義の確立にいたる歴史的背景について100字以内で述べよ。

問2 下線部(1)について、こうして確立された古代のユダヤ人の信仰の特徴を説明しなさい。